

# ホクレン営農支援情報

(2019年7月号)

## ●農作業ボランティア（ボラバイト）による田植え作業の労働力確保 《岩見沢支所 営農支援室》

岩見沢支所では、JA そらち南で田植え作業の労働力確保などを目的とした農作業ボランティア（ボラバイト）の受け入れを昨年から行っています。今年は5月18日～19日に実施し、それぞれ17人と11人が参加。7軒の受け入れ生産者とマッチングをしました。

参加者はハウス内の苗はがしや運搬、田植え機への苗補給などの作業を担当。「田植え機に乗ることができて楽しかった」「お米を育てる大変さが分かった」との感想が聞かれました。この内容はアグリポート20号（8月発行）でもご紹介予定です。



## ●小麦ゆめちから試験圃場（JA 伊達市）の調査を実施 《苫小牧支所 営農支援室》

6月7日に実施した小麦の現地調査は、3月22日と4月23日に続く3回目の調査となりました。試験圃場では安定多収に向けた適正な施肥量の検証を進めています。

この日の調査には、苫小牧支所米麦農産課の案内のもと、北海道米麦改良協会とホクレン麦類課に加え営農支援センターも参加しました。生育状況は、慣行区および試験区（減肥区）ともに順調に経過しており、良好な収穫結果となることが期待されています。



試験区（減肥区・写真左）と慣行区（写真右）

試験区（減肥区）のゆめちから

## ●農協職員のスキルアップ<sup>®</sup>に向け草地植生研修を開催 《中標津支所 営農支援室》

根室管内農協営農担当者協議会自給飼料強化推進部会（以下自給飼料部会）では、管内のJA職員の技術スキルアップに向けた活動を行っています。その活動の一環として5月20日に、JA標津町において草地植生研修を開催し、関係機関を含め35名が参加しました。

研修では午前中にホクレン畜産生産部による雑草の見分け方の講義と、標津町生産者の草地で6班に分けた植生研修を実施。午後からはホクレン中標津支所農機燃自生活課、生産資材課、営農支援室による座学講習を行いました。参加者からは「植生研修、座学とも勉強になった」と感謝の言葉をたくさんいただきました。

自給飼料部会では、管内JA職員のスキルアップに向けた活動の一環として草地植生研修

を今後も毎年開催する予定で、来年は JA 中標津町が開催予定地となります。



## ● 牧草の適期刈取りの検討に向けたオーチャードグラス栽培圃場視察を開催

《中標津支所 営農支援室》

根室管内農協営農担当者協議会自給飼料強化推進部会（以下、自給飼料部会）では、チモシーと刈取り時期が異なるオーチャードグラスの圃場視察を5月24日に開催し、14名が参加しました。これは、昨年6月の長雨による牧草の刈取り遅れを踏まえ、対策のヒントを得ることが目的です。

視察では、圃場を所有している株式会社ノースランドデイリーの原井代表からオーチャードグラスを導入した背景などについて説明を受けました。また、同圃場で収穫されているオーチャードグラスの品質が管内平均のチモシーよりも良いことなどについて、データに基づきホクレン中標津支所営農支援室から説明しました。その後、参加者は各自で圃場を観察し、雑草が少ないことや成長が早いことなど、チモシーとの違いを学びました。

今後も自給飼料部会では管内の自給飼料の品質、収量向上に向けた検討を進める予定です。

## ●コントラオペレーター研修会を開催 《北見支所 営農支援室》

ホクレン北見支所では、5月29日に訓子府実証農場でコントラクターのオペレーターを対象とした研修会を実施しました。当日は、あいにくの天気でしたが、オホーツク管内を中心に18名が参加しました。

研修会では、「良質サイレージの調製方法」「農作業安全」「添加機の取扱い方法」などの座学を実施。その後、参加者は使用する収穫機械のメーカーごとに分かれ、収穫機の構造や機能について説明を受けた後、実機を用いて操作方法のポイントなどを学びました。



添加機取扱い方法の実演



収穫機構造の説明

## ●トルコギキョウの定植 《長沼研究農場 園芸作物開発課》

5月16日および6月3日に、本年の品種展示会（「ホクレンフィールドデー2019」）で展示するため、7社の78品種の苗を定植しました。昨年度は地震の影響により展示会は中止となりご迷惑をお掛けしました。今年のご来場をお待ちしています。



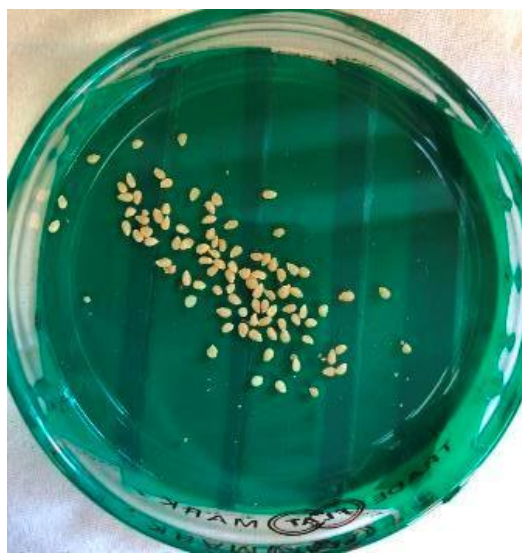
当課では、視察受け入れも行っています。ご興味のある方は、園芸作物開発課まで。

(Tel : 0123-88-1990)

## ●馬鈴しょの品種開発は交配した種子の播種から 《恵庭研究農場 畑作物開発課》

恵庭研究農場では馬鈴しょの育種に取り組んでおり、種子より発芽した苗の定植を6月3日から行いました。

毎年5月に10万粒を目安に播種しますが、今年はこのうち約45,000株を定植しました。通常、馬鈴しょ生産は種いもを利用しますが、種子は交配により得られた果実から採取します。品種候補の1年生であるこれらが日の目を見るのはまだ先になりますが、より良い品種をいち早く生産者の皆さんにお届けできるよう取り組んでいます。



馬鈴しょの種子（大きさは2~3 mm）



定植後の苗

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp